

CASBEE神戸ver.3

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	富士電機(株)神戸工場新棟	階数	3
建設地	神戸市西区高塚台4丁目1番の1	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	60 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年10月 予定	評価の実施日	2025年6月2日
敷地面積	60,913 m ²	作成者	杉山 拓也
建築面積	6,347 m ²	確認日	2025年6月2日
延床面積	8,841 m ²	確認者	小林 貴久

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 0.6 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★★★★★	標準計算 30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆ ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ 0 46 92 (kg-CO₂/年・m²) このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.4	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.9	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 1.8
LR 環境負荷低減性		
LR1 エネルギー LR1のスコア= 2.8	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.7	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.7

3 CASBEE神戸の重要項目		
バリアフリー計画	建築物の耐震性等	まちなみ・景観への配慮
Q-2/1.1.3 バリアフリー計画	Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振	Q-3/2. まちなみ・景観への配慮
 3.0	 3.0	 3.0
	Q-2/2.4 信頼性	
	 1.8	
配慮の概要 福祉まちづくり条例に基づき、玄関から3階会議室・多機能便所までの動線について高齢者等利用経路として「段差なし、通路幅確保、各種表示、昇降機の設置」等、整備基準を満たす機能を有している(聴覚・視覚障害者の利用に配慮した設備は無し)。	配慮の概要 整形な平面計画で構造的に安定性の高いラーメン構造としており、建築基準法に定められた耐震性を有する。	配慮の概要 道路境界から30m以上離れた位置に配置している。南東側の敷地境界からも13m離れており、隣地は高塚山緑地で建物の外観がまちなみ・景観に対して影響を及ぼさない。
その他の配慮事項		
0		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)
富士電機(株)神戸工場新棟

■使用評価マニュアル CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								2.3	
Q1 室内環境					0.31		-	2.4	
1 音環境				1.8	0.15	-	-	1.8	
1.1 室内騒音レベル				1.0	0.40	1.0	-		
1.2 遮音				2.2	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	1.0	-		
2 界壁遮音性能				1.0	0.40	1.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				1.0	-	1.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				1.0	-	1.0	-		
1.3 吸音				3.0	0.20	1.0	-		
2 温熱環境				2.1	0.35	-	-	2.1	
2.1 室温制御				3.3	0.50	-	-		
1 室温				2.0	0.38	1.0	-		
2 外皮性能				3.0	0.25	1.0	-		
3 ゾーン別制御性		個別PAC方式とし、各室(40㎡以内)の温度調節が可能。		5.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御				1.0	0.20	1.0	-		
2.3 空調方式				1.0	0.30	1.0	-		
3 光・視環境				2.1	0.25	-	-	2.1	
3.1 昼光利用				1.8	0.30	-	-		
1 昼光率				1.0	0.60	1.0	-		
2 方位別開口				-	-	1.0	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-		
1 昼光制御				3.0	1.00	1.0	-		
3.3 照度				3.0	0.15	1.0	-		
3.4 照明制御				1.0	0.25	1.0	-		
4 空気質環境				3.3	0.25	-	-	3.3	
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		シックハウスに関わる建築材料は全てF☆☆☆☆とする。		4.0	1.00	3.0	-		
4.2 換気				3.0	0.30	-	-		
1 換気量				3.0	0.33	1.0	-		
2 自然換気性能				3.0	0.33	1.0	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	1.0	-		
4.3 運用管理				2.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				1.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御				3.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.9	
1 機能性				2.7	0.40	-	-	2.7	
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				-	-	1.0	-		
2 高度情報通信設備対応				-	-	1.0	-		
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				1.5	0.30	-	-		
1 広さ感・景観				-	-	1.0	-		
2 リフレッシュスペース				2.0	0.50	-	-		
3 内装計画				1.0	0.50	-	-		
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		内装材には防汚性の高い材料を採用している。		4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				2.8	0.30	-	-	2.8	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		内装材には耐用年数20年の石膏ボードを採用している。		5.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				1.8	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				1.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				1.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				2.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	各階4mを超える階高を確保している。 壁長さ比率0.17	5.0	0.60	1.0	-	
2	空間の形状・自由さ		4.0	0.40	1.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	2.0	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.39	-	-	1.8
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			1.0	0.30	-	-	1.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		1.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		1.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	2.7
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.8
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m 0.75	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m] = 0.96	2.2	0.50	-	-	2.2
4 効率的運用			2.0	0.20	-	-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.7
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		小水型器具を採用している。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.9	0.60	-	-	2.9
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		内装材は乾式(躯体+軽鉄+石膏ボード)、可動間仕切壁の採用	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			1.8	0.20	-	-	1.8
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			1.3	0.70	-	-	
1	消火剤		1.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		1.0	0.33	-	-	
3	冷媒		2.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.7
1 地球温暖化への配慮		燃焼器具の利用無し。	3.1	0.33	-	-	3.1
2 地域環境への配慮			2.3	0.33	-	-	2.3
2.1 大気汚染防止		燃焼器具の利用無し。	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			1.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.7	0.33	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			1.6	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		1.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	